

会 議 録

会議名	第3回 宇都宮市環境基本計画ワーキングチーム会議					
開催日時	平成14年 3月 7日(木) 午後7時00分~午後9時15分					
開催場所	宇都宮市中央公民館 第5集会室					
出席者	ワーキングチームメンバー					
	小磯 順子		葛谷 理子		眞野 潤子	
	大野 邦雄		森本 久子		仁平 隆史	
	高沼 恭一	欠席	手塚 賢次		三宅 徹治	
	平野 正人		斉藤 軍夫		児玉 博利	
	林 常夫		江川 靖		村上 孝子	欠席
	事務局(宇梶環境整備係長, 他3名)					
公開・非公開	公開					
傍聴者	1名					
議 題	私の関心のある環境項目, 環境課題について 今後の検討スケジュールについて					

発言者	内 容
<p>三宅リーダー</p> <p>葛谷委員</p>	<p>それでは、目安として一人 10 分くらいの時間でご説明をお願いします。</p> <p>私は特に水環境に非常に関心がありまして、ワーキングチームに応募したのもその理由からです。</p> <p>関心のある環境項目として次の項目を掲げました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水環境の保全 水源地の保全，水質の安全性，雨水利用 ・生物の多様性の確保 緑地，里山の保全・創造 ・環境教育 環境の担い手の育成 <p>取り上げた理由として次の項目を掲げました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の上水道の水源地は他の自治体に頼っているため，宇都宮だけで考えるのではなくて他の自治体の協力が不可欠だと思います。 ・また，市街地の緑が減少しています。身近な水辺のコンクリートの護岸化により，市民が水辺に近づかなくなり，水質の汚濁に気づかなくなっています。そのことをまず直視する必要があると思います。 ・それから市域の貴重な湿地や沼を保存し，私たちが子供の頃，水辺でよく見ることができましたが，今は絶滅危惧種である「ミズガキ」をキーワードで取り入れられたらいいと思います。 <p>望ましい状態としては，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源としての雨水利用を進める。・特に宇都宮の地下水の利用は難しい状況にあります。 ・それから，「ミズガキ」の感性を取り戻すこと。 ・緑地や里山，農地を積極的に保全し，減った分は創造する。 ・そしてミズガキに関連してくるのですが，水辺の環境を改めて取り戻すことで，おいしくて安全な水や，身近な水辺を確保したいということです。 <p>望ましい状態を実現するために，</p> <p>市民が何をすべきかということですが，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの使う水がどこから来ているのか認識すること。 ・使用後の排水がどこへ流れ，どう処理されているか知ること。蛇口をひねる度に，蛇口の向こう側を認識する。 ・できるだけ頻繁に水辺にいき，水に触れ，子供を水に触れさせることが市民として大事だと思います。 ・それから資源の問題として，原材料や資源をどこに求めているのか，廃棄した後の処理方法，その行方を市民として知ること。廃棄物が環境を汚染していることを認識すること。 ・使い捨て商品，過剰包装を減らす。

葛谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・省資源を心掛ける。 ・なるべく車を使わず，歩いたり自転車にのったりすること。 ・地域社会や世界の環境問題に常に関心を持って，自分に何ができるかを考え，些細なことでもまず実行すること。 ・こういうことが市民として大事だと思います。 <p>行政がなにをすべきか，どうすればよいのかについては，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつは，やはり環境教育。 ・それから基本的な情報の提供で，様々な環境情報をまとめて市民に提供するというのも積極的に進めていただきたいと思います。 ・最後に，有害物質の発生を規制・監視や事業者の指導を行政は進めてほしいと思います。
三宅リーダー	<p>ありがとうございました。幅広い発言がありましたが，水環境保全として話を聞かせていただきました。</p>
児玉委員	<p>前提といたしまして，環境の全てをまかなうというのは，なかなか難しいという部分があると思いますので，私は，リサイクルを題材にしたいと思います。宇都宮青年会議所で環境委員長を仰せつかっておりまして，リサイクルについて考えてきました。</p> <p>実際にやった事業といたしまして，早稲田商店街ではペットボトル回収機を置いて，ペットボトルを入れるとルーレットが回って当たり券が出てくる。そして，その当たり券はその町のラーメンや餃子一枚券とか，スーパーマーケット 50 円割引券とか，一等はなにかの無料券とか。（このように商店街のオーナーがアイデアやお金を）出し合って，その結果，他の地域からもペットボトルを持ってその商店街に買いに来るようになったという，町おこしを兼ねたリサイクルのお話をお聞きしました。</p> <p>実際私も行ってきました。なぜそのような形をとったかということ，リサイクルをなさい，とどれだけ行政が言ったとしても，興味がない市民には関係ない。分別も未だに出さない人がいっぱいいます。</p> <p>なぜかということ自分に関係ないから。そういう人が多数だったら，行政が計画を立てようが，上からリサイクル，リサイクルと言おうが，実際難しい。ならば，人間はそういう風に思うかっていうと，それをやれば自分が得する場合，やらなければ損をする場合，それが人間が動く原理です。</p> <p>それならばということで，方法はいろいろあると思うんですが，リサイクルに協力した人に，何かインセンティブが与えられるようなシステム。もしくは，分別をしなかった場合に，何かペナルティーが課せられるというようなシステム。</p> <p>将来的には，全市的にやるのは難しいけれども，モデル地区を区切ってやってみると，じゃあ商店街でもやってみようか，という話になる可能性があります。</p>

児玉委員	<p>私の環境論としては、例えば、今燃やしているごみを堆肥化できないか。堆肥化に対しては、使い道がないという批判が今ものすごく多いですね。</p> <p>農業では連作障害とか塩分で農地がだめになるなどと批判的になっていますけれども、ごみは燃やしたら灰とダイオキシンになりますが、堆肥として積んでおけば中央分離帯を造る時や公園の緑化に活用できるかもしれない、などとりあえずリサイクルで堆肥にしておけば、ペットボトルもリサイクルできる状態にしておけば、燃やすよりはいいのではないかというのが私の持論です。</p>
三宅リーダー	<p>ありがとうございました。それでは小磯さんお願いいたします。</p>
小磯委員	<p>私は生活の中で、現在のような環境下での子育てというのを大変だなと感じています。</p> <p>こういうふうになってくれたらいいのにな、というような視点から、環境問題というのは全てがつながっていて複雑なんですけれども、その中から、今自分が希望するというような項目を二つ程絞らせていただきました。</p> <p>自動車交通とごみに関して、意見を述べさせていたきたいと思います。</p> <p>まず自動車なんですけれども、どなたもご存知のように排気ガスによるアトピー・喘息、花粉症、ガンなど健康への悪影響、二酸化炭素による温室効果、郊外型の大型駐車場をもつ市場への流出による中心市街地の空洞化、交通事故の増加、生活道路に自動車が入り込み、子どもが安心して遊べないような状況になっています。</p> <p>道路には、交通のための幹線道路と、住宅地の間を通る細い道路で主婦同士が会話をしたり、子供が駆けずり回って遊んだりする路地があると思うのですが、そうした道路にまで自動車が入り込んで、子育て中の親は、伸び伸びと遊ばせてやりたいのですが、子供の交通事故への不安に怯えなくてはいけない状況にあります。</p> <p>私も以前は自動車を運転していましたが、今はできるだけ乗らないという生活をしています。その中で怖さが見えてきたという感じがします。</p> <p>それでは、どうすればいいんだということになると思いますけれども、今、自動車依存型の社会になってしまっていて、車を使わないでとなると社会の機能がストップするし、個人の交通権、移動する権利のようなものが犯されるということになってくると思うんですけれども、それを補完するのが行政の役割ではないかというふうに思っています。</p> <p>自動車を使わなくても便利に移動できるシステムを社会的に整備する必要があると思います。</p> <p>それには、いろいろな方法があると思うんですけれども、市の広報でもLRTの計画があるようなことを読んでおります。</p> <p>東京などは地下鉄網が充実していますが、宇都宮では、都市バスをもっと便利に、安価に使えるようになればすごくよいのになあと今思っています。</p>

<p>小磯委員</p>	<p>渋滞に巻き込まれると決まった時間にいけないなど、地下鉄と違う部分で利用しづらいところがあると思うんですけども、専用レーンを確保することで、定時性、高速性を備えることができます。</p> <p>また、同時に排出ガスの総量を抑えないと、環境そのものが大気浄化できなくなりますので、総量の抑制がどうしても必要になってくると思います。</p> <p>LRTだと自動車道はそのまま、新たに路線を新設するということになると思うんですけども、都市バスならば車線を規制することで、交通量を抑制することができます。LRTは、新たな建設による環境破壊が懸念されます。</p> <p>都市バスの方が、建設、維持費とも安価であり、柔軟性が高く、輸送力は専用レーンを確保した場合、LRTと変わらないそうです。</p> <p>であれば、その方が宇都宮市に合っているのではないかと、より多くの市民に利益が還元されるのではないかと考えています。</p> <p>先ほど申し上げた生活道路の方なんですけれども、ある程度車が入ってこないような規制をしてほしいと思います。ヨーロッパでは細い道に街路樹をうまく植えることによって、自動車が蛇行しなければ走れないような道路をつくっている例があるようなんですけれども、コミュニティ道路とか共存走路と呼ばれてまして、これを宇都宮市でも採用していただけたら嬉しいんだけどなと思っております。住宅地区では、歩行者、自転車の通行や居住者の生活を優先させるべきではないかな、というふうに考えております。</p> <p>交通のための幹線道路と生活道路を分けて、生活道路に自動車が入りこまないような規制が必要だと思います。</p> <p>市民として何をすべきか、どうすればよいかということになりますと、まず、自動車を運転する際、住宅地の中の生活道路には特に用事のない限り入らない。幹線道路を使って移動する。</p> <p>また、極力自動車の利用を控え、徒歩、自転車、公共交通機関を積極的に利用する。これはもう当たり前のことというか、環境問題が出てくると必ず言われていることなんですけれども、そのための公共交通機関の整備がないとやはりできないことではないかと思っています。</p> <p>事業者として何をすべきか、これは、どこが事業主体となってこのようなことをやるかというのもあると思うんですけども、例えば行政が事業主体になってやってもいいと思うし、バス会社や第三セクターが事業主体となってもいいと思います。</p> <p>市民としては、通勤、通学など人に移動に係る交通を、公共交通機関や徒歩、自転車などを使う、といった配慮であるとか、それを推進・促進するようなことをやっていく必要があると思います。</p> <p>行政としては、どうしても取り上げた理由と重複してしまうのですが、自治体の責任は環境保全の関係から交通総量を抑制すると同時に、交通権を保証する交通輸送サービスを維持することだと思います。</p> <p>もしも、新たなシステムを整備する際には、初期投資に対する公的、金銭的</p>
-------------	---

小磯委員	<p>援助を行うことができると思います。</p> <p>後は、共存道路，コミュニティ道路の整備，市民やドライバーの意識変革のための啓蒙活動を行う。これは全てにおいて共通することなんですけれども，環境に対して，市民はどう行動するか責任があり，行政には市民行動を先導する責任があると思います。</p> <p>もうひとつ，興味があるごみ問題に移らせていただきます。</p> <p>ごみに興味をもったのは，環境ホルモンが，こどもの成長に悪影響を及ぼすと知ってからで，先ほど程児玉さんがリサイクルのお話をしてくださったんですけれども，私自身は，大量リサイクルでは，資源循環できないと考えております。</p> <p>リサイクルではなく，リサイクルを除いた3R（リユース，リフューズ，リデュース）でやっていくべきではないかと思っております。</p> <p>栃木県のエコライフネットワークに入っているのですけれども，ペットボトル，再生品を利用しましょうという項目がありまして，ペットボトルからフリースが作られていたりするんですが，そういうものを買って使いましょうとあるんですが，「何，それは違う！間違っている！」と思ったんですけれども，そのようなことも感じました。</p> <p>取り上げた理由としては，資源の浪費，投げ捨てにより景観が損なうという問題，焼却による二酸化炭素の放出，温室効果，ダイオキシンと有害物質の発生，これは車とも重なります。埋め立て地の問題，ごみ処理コストの増大による自治体負担が今非常に増えているというふうに認識しております。</p> <p>それは最終的に市民の負担ということになると思いますので，その辺が問題かと思えます。</p> <p>この前の報告でリサイクル率20%というのを読みまして，がっかりしたというか，一生懸命分けて分別しているんだから，出したものは資源として有効に利用されているんだらうな，というような意識をもっていました。</p> <p>原因をいろいろ調べて見たのですが，法律の不備などいろいろな理由があるようなんですけれども，リサイクル率を高める必要があるのではないかと思います。集めることが大変で，集めた後，実際リサイクルに使われないという問題が重なってくると思います。</p> <p>望ましい状態というのは，新たに地面から掘り出したり，切ってきたりとかそういう資源を最小限にして，いっぱい循環させて，どうしても燃やさなくてはいけないものは最小限に抑える必要があるというのは，当たり前なことなんですけれども，そのようにしなくてはいけないし，そういうふうにするのも難しいかなあと思うんですけれども，どうしたらいいのかなあと考えた時に，拡大生産者責任を採用する必要があるのではないかと思います。</p> <p>ペットボトルでいいますと，東京ルール，大阪ルールというのがありまして，消費者から小売店，小売店から卸業者という回収ルートができているんだそうです。ペットボトルは容積が大きくて運搬コストが非常にかかるということ</p>
------	--

<p>小磯委員</p>	<p>聞いております。</p> <p>それが自治体の負担にすべてなってくるということに現在なっていると思うんですけれども、それは市民に負担になってきて、お金はかかるし、ごみを集めて回る車の排気ガスも出ます。</p> <p>どうしたらいいのかなあとと思って、リサイクルできる包装容器等の小売店での回収を義務づけたらどうかなと思いました。小売店で回収されたものは、製造・卸売り業者へ、と考えました。</p> <p>いらなくなったものを買ったところに戻せるようにすればいいんじゃないかと。ごみになってしまうような容器で販売して利益をあげている小売店ごみ処理に関するコストを負担し、製造業者がごみを処理する責任を負うべきだと思います。</p> <p>そうすることによって環境に負担のかからない容器の使用ですとか、そのようなことが促されればよいのではと思っております。</p> <p>義務づけるというのは、消費者が使ったあとに、空き瓶だのペットボトルなどを買った先のお店に持っていったら受け取りを拒否できないというイメージです。そのようなことは大変だ、面倒くさい、ごみ収集に出した方が簡単だということになると思うんですけれども、それができた時に、はじめてごみの有料化をセットにすることで、ごみを出したらお金をとられてしまうんだったら、持っていった方がいいかな、となっていくのではないかなと思いました。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。自動車交通とごみということについて聞かせていただきました。</p>
<p>眞野委員</p>	<p>私の関心のある環境項目といたしますのは、特に関心のある項目として「美しい都市景観の保全、創出」を掲げました。</p> <p>年々、宇都宮の景観が悪くなっているのを実感します。</p> <p>なぜかと言いますと、最近企業や大型店舗の倒産で、後に入ったお寿司屋さんなど、目に突き刺さるような、けばけばしい外装とか目に余るものがあります。最近作られている道路を見てもらうと、以前植えてあった木を取り払って、電線の地中化の工事をしています。私は当然、いったん取り払った木をまた植え戻すのだと思っていましたら、そうではなくて、植えてあった土が舗装されて石が並べられているんです。</p> <p>都市の景観や自然、緑を大切にという声が高い割には、実際には元々あった緑までなくなってがっかりしてしまいました。</p> <p>ヨーロッパ等にたまに行きますと、観光地から観光地に行くまでの間も、日本では考えられないような美しい景色がずっと続きますよね。</p> <p>なんで日本ではそのようなことが実現できないのか、いろいろ考えて見たんですけれども、住民の都市景観に対する意識が低いのではないかなと思うんです。</p> <p>住民というのには行政も含まれていると思うんですけれども、市役所の方、県</p>

<p>眞野委員</p>	<p>庁の方、公務員の方々も一般市民でいらっしゃるわけで、少しでもそういうことを改良していかなければいけないと思います。</p> <p>どちらかというと、大都市よりも中都市の方が俗悪化はひどいと思うんです。先程、小磯さんがおっしゃったコミュニティ道路は、他県ではよくみかけられますが、宇都宮ではそのような道路をあまり目にしたことはないんです。</p> <p>木というのは、これだけの地面の面積があれば一本の木が植えられます。一本の木から上に枝葉が伸び、広がっていく緑面積ができるわけですが、どんどん剪定してしまって、本来の美しい木の姿でなくなってるんです。</p> <p>一番望ましい状態を実現するために考えていることは、自分達のまちの景観にもっと関心をもって、まちづくりに市民の意見がある程度反映されているようになっていかな、とは思いますが、実際どこまで取入れていただいているのか分からない部分はあります。</p> <p>事業者として何をすべきか、どうしたらよいかということですが、本当に目にあまるような看板、広告が増えていますので、規制するようなものが行政サイドでできないかなという感じがします。是非やっていただきたいと思います。</p> <p>樹木を植えますと、夏でも木陰ができて道を歩けるようになるわけです。落ち葉や虫がつくなど住民の方の反対に抵抗できない場合があるわけですが、今作られている道路を見ますと、住民側のいいなりになっているのでないかなという気がしてなりません。</p> <p>緑から受ける恩恵のことを考えると、行政サイドでデメリットよりもメリットの方が遙かに人間は自然から恩恵を受けるのではないかとということをもっと市民に啓蒙すべきではないかと思っています。</p> <p>それから、私が今住んでいる住宅団地は20年ぐらい経っています。こどもの姿はすっかり消えてしまい、ブランコ等わびしく公園に残っているんですけれども、それは残して置いて構わないとは思いますが、これからはその公園を児童公園から、そこに住んでいる子育てが終わった大人達やこれから高齢化していく住民が楽しめるような公園に、自治会単位でもいいですから作れるように市サイドで奨励していただきたいと思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>仁平委員</p>	<p>課題を再整理して、組み立て直そうと認識してましたので2つほどお話ししたいと思います。</p> <p>ひとつは基本計画の作り方です。</p> <p>基本計画には、国も県もあり、それぞれの立場があり、市でも同様です。地球的規模と個人の身のまわりの生活と、その間をつなぐ地域環境といった視点を強く捉えていって欲しいと思います。</p> <p>この計画は作り上げたら、市民に伝えて行動に繋げていかななくてはなりません。</p>

<p>仁平委員</p>	<p>市民に分かりやすくなければならないと思います。</p> <p>本市の環境の特徴は何か、という視点でみると、ドイツの環境観の、あるがままの地形、川、景観を認識することが必要だと思います。</p> <p>2番目として、地域の環境と地球環境がどういうふうに繋がっているのかということ。北関東は平均気温プラス5℃で鹿児島と種子島の間くらい。雨量が変わらないとすれば5月、6月の川は減ってくる、夏の暑さは増す、そんな風につながっていく。地球の問題ではなくて、地域の問題というつながりを考える必要があります。</p> <p>もうひとつ、この環境を次世代に繋げていく、ついまわしはしない、といった視点がどうしても必要だと思います。</p> <p>もうひとつは、こうした認識をもった上で、これからどんな地域の活動に参加できるんだろうと思うかもしれません。その時に環境に配慮した指針だけではなくて、行動できる幾つかのプログラム、地域で活動する仕組みが必要だと思います。</p> <p>北海道の栗山町のエコマネー、仕組みがわかりますかと地元のお年寄りに聞いたら、労働力の交換といったという反応がありますから、地域の分担・連携していく仕組みというのがでてくるんだろうと思います。</p> <p>こういう4つの観点を基本計画の流れ、前提を認識して、課題、構造をつくって、そこから計画の目標を定めてそれに対してどう参加していくか、流れの中にひとつひとつ入れていくと全体の計画が成り立っていくのかな、という感じがします。</p> <p>前提では、日常住む我々の地域の特徴、2番目として、自分達の出している汚染と大気汚染等とどんな繋がりがあるか。特に栃木県は免許、車の普及率が全国第2位です。目標を子孫につけを回さないという視点から考えていけば大気、水、自然の優れた基盤環境と化学物質、廃棄物、温暖化物質の負荷を増やさない。多分、2つの大きな行動目標が見えてくるんじゃないかと思っています。</p> <p>もうひとつは市民の参加ですが、市の計画では協働というのがキーワードになっているようですが、仕組みを次につくっておくというのが必要です。</p> <p>環境基本計画の作り方は、環境項目をまんべんなく拾ってクロスチェックをして関連性を関連づけるのではなく、もう少し大掴みに、地域のまとまりの中で宇都宮というのは何かという計画の分かりやすさ、目標につないでいくという方法があるのではないかと思っています。</p> <p>2番目としては、私自身のこだわり、平地林をつなぐみどりの回廊を宇都宮市につくれればいいなという希望をもっています。</p> <p>私の家の外気温は隣に雑木林があり、他よりも2℃近く低い状況でしたが、それが消えたと同時に、夏は暑くなり、鳥の声が消えてしまいました。</p> <p>そういう実体験を踏まえまして、基本計画の中で地域の風土を体験認識すること、そういった機能を次世代に継承すること、そしてそれを継承するための仕組み、地域社会を作っていくこと、この3つを組み合わせれば、いい方向へ行</p>
-------------	--

<p>仁平委員</p>	<p>くのかな、というこだわりをもっています。</p> <p>コナラとクヌギとシデなどの二次林ですが、縄文時代では古代人に食料供給していましたが、昭和30年代の中頃までは、薪と落ち葉などによるエネルギー、農業肥料等を供給しており、実は、これらは保存することではなくて、使われることでその機能が活かされてきた、手入れが必要な環境です。</p> <p>現代でも、大気を浄化してくれる、地下水を涵養したり、動植物を生育させたりする環境です。水田、ため池を含めた里地、里山というのは、環境庁のレッドデータブックを見ていましたら、絶滅危惧種の植物の約半分、動物の55%が生育しているという重要なものです。</p> <p>ただ、今は手入れが欠落しているということで、木が大きくなって日照が下に届かないため、カタクリ、スミレ、クサボケというのは全部消えて非常に単純な林になっています。</p> <p>もうひとつ、日本人の森林意識というのは言葉では原生林を選びますが、写真で選ばせると、人間がきれいに手入れをした北山杉の人工林を選びます。</p> <p>知っている木は公園や街路樹でみられるものしかあげられません。</p> <p>二次林とか屋敷林とか緑地とか河畔林とか、そういうものを大きなかたまりではなく、ネットワークのように繋げていくような回廊を宇都宮で考えられないかと思っています。コリドーの機能を持ちますし、これからの時代の社会資本、明るいままの林にして、散歩道や通学路、園芸資材の場など、大きな基盤になるんじゃないかと。すぐにはできませんが、私たちが今始めれば100年後にはものになるという形なのかなと思っています。</p> <p>このためにどうするか、というと相当難しい問題だろうと思っています。</p> <p>市の施策の中でも環境部だけではできないのは重々承知しています。</p> <p>各部局と連携して方向性を出す、それでも多分できないでしょう。</p> <p>県との調整をしていかなくちゃいけない。そういうのをつくる目標として協働という言葉をもっと具体的にした輪、それを織り込んでいったらどうなるんだろうか。他都市の事例収集や市内の実態調査などをみんなが分担してやったらどうか。他では金を使わないでつくった、こんなかたちで費用負担をしているといったノウハウをもっている人が参加することでコンサルがわりの働きができる時代になってきているのではないかと思います。</p> <p>方向が決まれば、市の施策として土地を買って公園にする、トラスト契約を結ぶ、市民が技術・ボランティア登録、若年層と老年層がジョイントした形の体験というのに繋がるのではないかと希望を持っています。</p> <p>そういうものができることが、例えば横浜とか、外国との連携にも繋がっていくと思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。非常に多くの提言が含まれているお話をいただきました。</p>

<p>大野委員</p>	<p>まずイメージ図の方ですけれども、私なりにいろいろな資料を見るましてまとめたものです。大きな丸は、地球あるいは宇都宮市を表していまして、自然環境保全、生活環境改善、都市環境美化、環境負荷物質の削減という4つの柱の下に地球儀の台座としまして、環境教育・学習・啓蒙を掲げております。</p> <p>それぞれの項目の関係は点線で結んでおります。</p> <p>今日はこの中から取り上げたものが3点あります。</p> <p>関心のある項目といたしまして、環境教育・環境学習。</p> <p>取り上げた理由としましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の内容は世界的に共通認識されている。これは環境課からいただいた資料もそうですし、私の方で調べても、共通する課題だと思っております。 ・環境対策も様々な取り組みがあり、それなりに成果をみている。 <p>これはいただいた資料でもわかりますし、他都市、先進国でも見受けられます。したがって、宇都宮市をよくしようとするならば、こうした事例のいいところをすれば、世界で最も進んだ環境都市ということになると思うんですが、しかしながら、環境に対する市民の意識が低いといわれており、実現にあたっては、行政、事業者、市民が一体となって環境意識を向上することが必須だと思います。</p> <p>望ましい状態としましては、</p> <p>1番目として広範囲で継続的な環境教育、環境学習を実施するというところで市で相当あるといわれる自治会の活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会主催の環境学習会の開催を積極的に支援するという方向にもっていったらどうか。 ・生活の知恵学習会の開催支援 生活の知恵をもっているお年寄りを講師にして開催する。 <p>企業内教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講師を派遣する。 ・環境カウンセラーを支援する。 <p>環境体験作文コンクールの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは群馬県の方でもなされているようですけれども、小中高生を、あるいは成人を対象に、どういうふうに環境対策をやっているか、自らの体験を作文にして、発表していく場を継続的に設けたらどうか。 <p>環境専門の広報誌の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこで、市民の環境の取り組みを紹介したり、先進国の事例紹介、環境データを掲載する。 <p>環境シンポジウム定期開催</p> <p>環境改善コンクールの定期開催、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こういったものを通して、取り組みを発表する場にしたらどうかと思います。
-------------	---

<p>大野委員</p>	<p>2 番目といたしまして環境学習のフィールドづくり。</p> <p>現状の河川愛護協会，グリーントラスト活動等がございますけれども，これらの啓蒙を通して市民が広く参加できるようにする。</p> <p>環境保全推進モデル地区の構築，ということで一例といたしましてさつき団地プロムナード構想支援。私が住んでおりますさつき団地内に新川が流れておりまして，その河川をメダカやコイが住む川にし，周囲に植木を植え，近くにあります公園を散歩道など緑にする。その中で小学校，幼稚園，周囲の人を交えて自然環境教育を実施する，生きた環境というふうになるのではないかと思います。</p> <p>ちなみに近くに畑が広がっておりまして，トラストで買えるのであれば，川と公園と森を結ぶ散歩コースになりますので，環境教育を含めたまちづくりができるのではないかと思います。</p> <p>環境家計簿コンクールとショールームの常設 暮らしの知恵コンクールとショールームの常設です。</p> <p>3 番目は市民団体活動支援です。</p> <p>各種NPO，NGOなどの市民団体の活動支援 環境ネットワークづくりと自由利用施設の設置です。</p> <p>4 番目は大規模開発，施設，イベントの構想段階での環境アセスメント実施義務化ということで，市の美観を損なうもの，環境に負荷を与えるものについては，事前に市，事業当事者，学識経験者，市民代表で構成して，開発が環境面からみてどうなのか評価を行うべきで，是非法制化してほしいと思います。</p> <p>5 番目はエコオフィス，エコストア，エコファーム，エコランチの認定制度設置ですが，環境面に対していろんな配慮をしているのであれば，それを積極的に認定してもいいのではないかと。査定方法としては，省エネ，省資源，省ごみ，雨水利用，エコ発電，自然エネルギー利用，有機栽培，自然物利用などの実践度で図り，1S014001 の宇都宮版環境認定制度とすればいいのではないかと思います。</p> <p>次に，関心のある項目としては，公害のない安心して過ごせる街づくりです。取り上げた理由としては，</p> <p>宇都宮市は全体的には大気は清浄な方と思われませんが，市中心や主要道路沿いなどの排気ガスが充満している。</p> <p>工場や公・民のゴミ焼却場から，もくもくと上がる煙を見ていると，排出物が本当に安心できる程度になっているか心配です。</p> <p>私の住んでいる住宅地では頻繁に悪臭がします。畑や家庭での焚き火だろうが，ダイオキシンなどの心配があります。</p> <p>排気ガスや焼却ガスなどに含まれる有害物は知らないうちに土壌や水源，身体に蓄積されて，子孫にまで影響していくので，できるだけ排出量が少ないのに越したことはありません。</p>
-------------	---

3. 望ましい状態としては

自動車排気ガス対策を実施する。具体的には

- ・パーク&ライド方式の導入
- ・市，外郭団体公用車の低公害車への全面買い換え
- ・低公害車買い換え促進策の実施
- ・アイドリングストップの喚起。これは社用車，自家用車共にです。
- ・エンジンストップ運動の展開。スーパー，コンビニでは時折エンジンのかけっぱなしが見られますが，タクシー乗り場，その他の駐車場でも見られます。これは当然公害問題，ひいては地球環境問題にもつながる非常に無駄なもので徹底的に排除していく必要があります。
- ・商用バスのエンジンストップ車両への切り替え義務化を法制化してほしいと思います。トラック，郵便配達車両，宅配車両のエンジンストップ義務化，これも法制化してほしいと思います。
- ・トラックの排ガス規制強化と排ガス定期点検の義務化
- ・サイクリングロード専用レーンの敷設これは新設，充実，拡充です。
- ・デンマーク方式の貸自転車システムの導入，パーク&ライドと貸自転車の組み合わせで，市営で無料としているそうで，こうしたことも是非やっていただきたいと思います。
- ・交通信号機のコンピュータ制御システムの導入ですが，これは今あるハードを使ってソフトだけで交通緩和ができるのではないかと思います。

工場廃棄物，ごみ焼却場廃棄物の検査強化と罰則強化をする。

下水，排気ガスの抜き打ち検査の実施と検査回数の増加，違反事業者に対する操業停止などの罰則強化，そして検査結果は必ず公表してほしいということです。

焚き火規制

焚き火の害などについてご存じない方もいらっしゃるようですので，広報，自治会経由などで，規制理由と内容の徹底を図る。焚き火を発見した場合，近所付き合いから言いにくい場合がありますので，焚き火 110 番のような通報先を設置する。ごみ分別の種類の細分化，デンマークでは 25 項目にわたるそうですが，その徹底化を図る。こうすることにより資源化率が高まると思われます。

共通項目としては，仮称「公害監視員の設置」で，名称例としてはクリーンキーパー，市の公認のバッジあるいは身分証明書か腕章を携帯し，違反目撃時の届け出，違反者への警告をする。これらはボランティアでの活動です。

大気汚染物質調査地点の増設，特にダイオキシンは測定が難しいといわれておりますが，黒松測定法などの確な測定が必要だと思えます。

さらに，環境課，学識経験者による汚染物質測定検討委員会を設置して，測定地点，測定対象物，測定方法，対策等を今一度検討されてはいかがで

しょうか。広報等により上記の取り組みの趣旨と内容を繰り返しの説明，
 広報による推進状況の開示も繰り返しやっていただきたいと思います。
 望ましい状態を実現するための取り組みといたしましては，
 市民としては，
 取り組みへの理解と協力，クリーンキーパーへの立候補，取り組みに対する積
 極的な提案，各種取り組みの主体性発揮，ごみの分別と削減努力。
 事業者としましては，
 取り組みへの理解と協力，立ち入り検査に対する協力，規制値遵守，環境社員
 教育の徹底，環境保全に対する能動的実践，環境負荷化学物質の自主規制，農
 薬・殺虫剤・殺菌剤・除草剤・化学肥料の自主規制。
 市としましては，

- ・あるべき姿を目標に規制化・制度化，法制化へ向けて積極的に推進する。
- ・関連複数部局との調整，事業者への説明，法整備化，これについては是非積
 極的に取り組んでいただきたいと思います。
- ・市民への積極的呼びかけ，汚染物質検査の実施と検査結果公表，各種汚染取
 り組みの進捗状況の公表もお願いしたいと思います。

3つめは，都市環境生活環境の改善です。
 望ましい状態としては，

ポイ捨て条例の徹底と罰則強化

この間の会議でも出ていましたが，道路などでポイ捨てが多く見られ，モラ
 ルが低い状況にあります。クリーン作戦などの実施で市民に環境美化の意識
 付けなどを図る必要があります。

糞公害防止

これも至るところで見られます。常習犯者の罰則を強化する条例化が必要で
 はないでしょうか。

たばこ対策

公共建物内での完全分煙化，例えば市役所 1F の禁煙スペースは効果があり
 ません。こうした形式だけの分煙化は排除すべきだと思います。

自動販売機の設置規制，未成年者への販売者の罰則強化，食堂，レストラン
 などの飲食業者への分煙化義務づけ，病院・介護施設・体育館など健康関連
 施設では完全禁煙化すべきだと思います。たばこ税の値上げ，増税分は公共
 施設の分煙対策に使用する。

三宅リーダー

非常に幅の広い意見をいただきました。

森本副リーダー

関心のある項目はもっとあったんですが，緊急に私たちが今しなければいけな
 いっていう4点に絞りました。

ひとつはごみ問題，それから温暖化対策です。

これは世界的に緊急に要請されていることですし，宇都宮市としてどうするか

というのは大事なことだと思います。

それから水質，土壤化学物質汚染ということですが，根本の原因は工場の排水であるとか，家庭の雑排水が多いわけで，その原因というのは，洗剤などの化学物質なわけです。

土壤の汚染もそうなんですけれども，土壤は農薬。それとこの間申し上げましたように除草剤が主に占めているということもありますし，殺虫剤もあります。先日も食べ物に関しての観点が弱いということを指摘させていただいたんですけれども，結局，土壤汚染を改善しなければ解決はありえないと思います。化学物質は，私たちの緊急課題として何とか対策を講じていかなければいけない問題と捉えています。

4つめの有害紫外線対策ですが，これは今のところ何も問題とされていませんが，実はフロンガスというのは冷蔵庫であるとか，自動車のクーラーであるとか，断熱材であるとかウレタンからどんどん出ていまして，オゾン層が破壊されているのが15，6年前，20年前のものが今出ているということで，それは止めなければいけない問題なんです。

自営対策としては，子どもたちの運動場やプールでシェードを作るとか，緑化をして緑の木陰を作らないと，どんどん有害紫外線は来てしまい，現実を誰も知らないという怖さがあります。

ダイオキシンということでごみ問題に急に関心が持たれましたけれども，最終的なごみを埋めるところも無くなってきているということもありますし，こういうことをみんなが知るべきだと思っています。

温暖化というのは，個人のレベルでは対処できないことで，ひとりがクルマに乗らない，あるいは電気を消してもどうにもならないことなので，国，地方，街，家族レベルで具体的に対策を講じていかなければいけないと思っています。ここでクルマに乗らないことができるかどうか，ということが大変大きな視点になるかと思っていますので，先程の新交通システムの導入であるとか，バスがいいのではないかとか，そういった問題になってくるかと思いますが，それは，時間がありませんので割愛します。

化学物質の問題は，先ほど申し上げたもの以外に，生活用品の中で海綿活性剤という恐ろしいものを私たちは無防備に取入れていて，環境ホルモンですから，これからの子供達が10人に8人が奇形で生まれているという現実があるわけですから，市としてどう対策するかということがとても大事だということを重ねて申し上げたいと思います。

望ましい環境像を簡単に申しますと，クルマ社会からの脱却ということ。便利，快適という生活から，少し余裕をもった生活ということを町ぐるみで考えていく，緑を多くして散歩ができる，歩くことが楽しめるまちです。

子供を私も乳母車に乗せて散歩しようと思いましたがけれども，排気ガスが顔にあたって吸わせなければいけないつらさを感じて子供を育ててきましたので，子供からお年寄りまで歩くことが楽しめるまちをめざすべきだと思います。

いま全国的にまちが空洞化して、大型郊外店が謳歌してきましたけれども、その郊外店もどんどんつぶれているような状態で、今がチャンスだと思います。まちからクルマを締め出すといった思い切った事をしないと、町の中に人がいることも、経済効率も復活しないという、これはどこのまちも考えていることで、どこが最初にやるのかということ問われていると思っています。また、使い捨てる世の中を止めたいということがあるんですけども、これはごみの減量化です。

企業の方に本当に考えていただきたいのは、修理するよりも買った方がやすいという世の中を、ここで脱却して頂きたいということです。何度でも大事に使える世の中にしていけないと、ごみはこれ以上棄てる場所がなくなっているわけですから、市民が協力してやらなければいけないというふうに思います。

それから、望ましい環境を実現するためにどうすればよいか、ですが、先ほど大野さんが詳しく話して下さいましたけれども、ソフトの面で啓蒙の部分で具体的に出されていまして、そういうことを実施したらいいと思っています。

環境に負荷を与えるものを買わない、使わない、減らす努力ということでやるべき事なんですけれども、なぜしなければいけないのか、となると教育というものが重要です。

生ごみの堆肥化でもそうですが、減らす努力をみんながしていこう、というように向かっていかなければならないとすごく感じています。

平塚の方で環境リーダーの養成というのを市でやったんだそうです。今その卒業生は400人を超えていて、その人達は市の税金を使ったわけだから、還元してくださいということで、自治会に派遣して地域の人に教育するというシステムを作っているそうです。市の環境講座に今まで私も出させていただいたんですが、暇な方が受けるものがないから受けているという状態だったので、すごくがっかりしたんですけれども、リーダーになっていただく、という付加価値をつけると、世の中の役に立ちたいという方もいっぱいいらっしゃるの、リーダーの養成講座をしますというふうに市は開催されたらいいと思っています。

事業者としてお願いしたいことは、厳しいんですけども、安全が立証されていないものや、有害とみなされているけれども経済優先でされてきたことが多いと思いますが、ぜひ環境を考慮した製品の開発を努力していただきたいと思うのと、やはり何度でも使える製品の開発とか天然エネルギーなどの活用を考えていただきたいと思っています。

東電の方もいらっしゃいますが、高圧電線なんですけど、市や県は無防備で景観にも影響ありますし、市では電力の80%を福島から買っているという状態なので、市では難しいことかもしれませんが、エネルギーということを考えていく、地元でなんとかしていくという方向で、今後考えて行かなくてはいいけないと思いますし、高圧電線はやはり絶対だめです。

<p>森本副リーダー</p>	<p>保育園や小学校がその下にあるというケースがあるんです。こういうことは外国では考えられないことです。電磁波対策も考えましたが、今携帯電話やめましようといっても、時流でそこまでいかないで、今どうしても避けられないということで、有害化学物質の緊急な自粛ということ、市が本腰で企業に要請したり、市民に啓蒙していくことはすごく大事だと思っています。</p> <p>行政としてどうすべきかということについては、教育システムを構築していくということもありますし、宇都宮はこういった有害化学物質という安心が実証されていないものは使わないまちです、というふうに誇らしく宣言してほしいなと思います。</p> <p>今までは、街路樹でも、葉が茂るから切ってくれという人がいるかと思うと、なんで切ってしまったんだ、夏は暑くてしょうがないじゃないか、そういう文句をいう市民がいっぱいいるわけですから、身勝手な市民に屈することなく、やはり市としてはこうなんですよ、あなたがたのお孫さんのために働いているんですよ、というような誇りをもって遂行していくという態度も必要だなと思います。</p> <p>また、自販機、コンビニ、大型店の規制、これはちょっと厳しいかもしれませんが、今野放しにされています。自販機もここ10年無防備に増えてしまっていて、営業マンによって言葉巧みに置かれているけれども、月の収益はたいしてないのに、一年中電気を使えばなし。深夜電力を使うといいますけれども、便利快適を助長するようなことを野放しにしてきたつけがあるわけですから、規制するというのを心掛けてもいいと思います。</p> <p>それから、個人的には学校や幼稚園、お年寄りのためにも公園にも紫外線のシェード、緑の木立というようなものがこれからますます必要になってくるというふうに思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>江川委員</p>	<p>環境で一番関心のあることですが、静岡県から来て最初、平地林というのがよく分かりませんでした。なんであんなところに林があるんだと思ったことがあります。ここではそれが普通であると思っていました。しかしながら、平地林も最近減ってきたということが現実にありますから、これ以上減らさないための対策を是非やっていただきたいと思います。</p> <p>そのためにも、私も仕事柄、環境教育というのが重要になってくるのではないかと思います。大人に直接説得しようと思ってもなかなか伝わらない点が多いんですが、子供にしっかりとした環境についての教育を受けさせると、ある程度素直に受け入れてくれます。また、子供から親に、”お父さん、お母さん、いけないよ、それは”という、大人から言われるよりも、自分の子供から言われると、聞きやすいというのがあると思います。</p>

江川委員	<p>そういう点でも是非進めるべきというふうに思います。それで私なんかは、真岡には根本山，自然環境センターがあり，本市には冒険活動センターやクリーンパーク茂原に環境未来館というのがありますが，駅の東側に施設がありませんので，鬼怒川ふれあいビーチなどに，環境教育センターみたいなものを，やはりまず最初に親しんでもらって，それから知って，学ぶというようなことができるような施設を作ったらいいのではないかと思いますし，その時には，専門の職員を常駐させるというのが理想ではないかと思います。</p> <p>県内では根本山にしかそうした施設がないという現状なので，お願いしたいなと思います。</p> <p>また，特に保全したりする上で，いろいろな情報を調べてみると環境調査などをするわけですが，正直なかなか必要な情報が全て出ているわけではないというのが現状だというのをよく耳にしまして，グリーンパーク茂原なども地元の方によると，”あそこにゲンジボタル今でもいたな”ということなんですけれども，記録に載っていないというようなことを聞きます。</p> <p>50年，100年後の宇都宮の良い環境の状態が保たれるようなことを是非やって頂ければいいのかな，というふうに私は思います。</p>
三宅リーダー	<p>ありがとうございました。</p>
林委員	<p>資料はないのですが，現場の声ということで農業環境問題について述べてみたいと思います。</p> <p>私は，農業従事者ですから，今日みなさんのお話に出てきた食料から水の問題，雑排水問題など，直接皆さんの生活に関係している職業ではないかと思います。その中で，自然環境を守っているのは，一番は農業者だと思います。</p> <p>その辺も皆さんに勉強して頂ければありがたいということで，意見を述べたいと思います。</p> <p>まず，農業など皆さんも研究していると思うんですが，エコファーマーについて先ほど大野さんが説明していましたが，農薬を好んで使っている人はいません。今は航空散布も年に一回と決まっています。なるべくやらないようにと指導を受けていますし，病気にならないような稲作りということも全農家で取り組んでおります。必要なければ，農薬散布も無くなっていくものだと思います。</p> <p>また，水資源と農産物については，いま牛の問題とか，口にいれるものについての不安があるかと思いますが，農水省の対策が遅れているということです。生産者は，そこまでは勉強していないんです。ものをつくるのが精一杯で，如何に農薬を減らして，堆肥を使っておいしいものを食べていただくかという努力はしていますが，その先の販売となり，黒豚も白豚も途中でいっしょになってしまうということまでは私たちは監視できない。</p> <p>まず市のレベルで何ができるかという点，身近に郊外に出ればこれだけ農村があるわけですから，皆さん郊外に出ていった場合は，農業者に”これは何を作</p>

っているんですか”等とどんどんそのような問いかけはしてもらってもいいと思います。今、農業者に”うるさいな”という人はいないと思います。私たちの年代の農家は答えてくれると思います。

あと、生ごみの堆肥ですが、児玉さんがいいましたが、堆肥で塩分が残るのは、牛の堆肥なんです。今、生ごみを堆肥化すれば、完全に塩基などは、残留はありません。

市に言いたいのは、生ごみの堆肥センターです。高根沢にはありますが、宇都宮市にはありません。土を活かすのは微生物なんです。堆肥を入れないと、化学肥料と農薬だけでは、作物は育たないんです。堆肥を還元して、循環していかないと、化学肥料のツケは出ています。

これから21世紀、私たちの後継者にバトンタッチするには「土づくり」です。そのための生ごみ堆肥センターを考えて欲しいと思います。消費者と農業者がいっしょになってやらないと、こういうことはできないと思います。市のレベルの施策ではその辺を私は提案して、時間もありませんので、また次の機会にお話します。

三宅リーダー

ありがとうございました。

斉藤委員

環境問題を考える時に、私の仕事上、どの程度の制限で我慢ができるのかということが常にあります。環境が非常に悪くなっているというのは事実です。

それを如何に、市民一人ひとりが足並みをそろえて参加して環境を良くするというような、ネットワーク等を立ち上げていくような進路をつくるのか、組織づくりをするというようなことが必要なのではないのでしょうか。

こういったことが一番大切なことだと思うんです。

私は中小企業団体中央会に属してしまっていて、事業者をお手伝いする立場にあるんですが、事業者の方たちに法律はこう変わりますよ、ですからこうして守らなくてはいけないとか、こういうやり方もあるのではないかというような指導もしています。

もうひとつは、業界の中には、環境を悪化させる物質を排出する業界と、環境の物質処理する業界があります。この両方に対する対応、出す側に対しては、出さないように、出すんだったらどのようにして出す、などそういうかたちで法的な面での対応や、お金を整備費用として活用する、市ではこういう対応をしていますよ、あるいはそういう対応ではうまくないんじゃないですか、とか処理する人たちに対して指導しやすい面があります。

またそれは、業界の人達もよく知っています。またそういうことに積極的であるうと思っています

もうひとつ、自動車問題については、一番いいのは、自動車に乗らなければいいんです。私は乗っておりません。また、電気自動車、これは電気自動車を作るときの環境汚染の問題もあるんです。ガソリン自動車とどちらが環境負荷が

<p>斉藤委員</p>	<p>かかるのかは分かりませんが、例えば、電気自動車にかえないとすれば、それに対応するものが、あるのかなのか、できるのかできないのか。</p> <p>それから税金問題。税金には地方税と県税、国税というのがあります。宇都宮市内の商店の固定資産税の平均に比べて宮環の周辺は16分の1なんです。</p> <p>当然、市内の商店は出ていくんですよ。1㎡のお店を開くのであれば、宮環では16㎡のお店が開けるわけです。こういうことを変えていかないと、事業者にああしましょう、こうしましょうというだけでは駄目です。</p> <p>もうひとつは、都市計画関連で首長さんの権限は大きくなっているはずですよ。ですから専用地域をつくって、ここは商業地域じゃなくてはだめですよ、ここは住宅地域じゃなくてはだめですよ、というようなかたちでやらないとだめだろうと思っているのは私個人の考えです。</p> <p>そのようなかたちの中からでしか、うまくいかないと思っています。</p> <p>どうしても自分で、目の前の草をむしってやることから始めるような教育をしていただきたい。これは中学3年生までは、かなり教育が行き届いていますが、高校生になると変わってしまうので、高校3年生まできちんとした教育をまずしてもらいたい。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>平野委員</p>	<p>私としては「環境への意識の向上」というのが非常に重要ではないかと思っています。</p> <p>栃木県、宇都宮市は、ある意味で都合のいい県、市だと思います。電力の85%を県外に頼ってまして、これがなければ、この電球も20本中3本くらいしかつけられない。3本つけて皆さん生活できますか、というと実際生活できません。大学病院は、獨協とか自治医科大学、日赤、済生会など大きな総合病院があるんですけども、医療産廃は県外で処理しています。県内で処理したいという方向ではきているんですけども、ダンプカーがきて、道に針が落ちていたらどうするの、というような観点で反対と非常に都合がいいんじゃないかと思っています。</p> <p>水にしてもそうです。栃木県は上流県でどちらかというと都合がいい。実際に野木町などにいくと地盤沈下がみられます。井戸水から取り上げているのが栃木県は多いんですけども、宇都宮大学の先生によると、ひとつのタンクモデルのようになっていて、浅層からだとそうでもないようですが、深層地下水から取水すると地盤沈下が起こると。水戸とか茨城県の人達は非常に水に対しての意識は強い。宇都宮だけではないんですけども、栃木県は取水制限はしたことはあるけれども、給水制限はしたことがない。こういう街ですから、福岡などの湧水などという状況は考えたことがない。福岡に行く公園などがありますけれども、雨水の中水道なんです。栃木県では足利市のスーパーのトイレの水が中水道になっています。</p>

このワーキングチームの我々の役割としてどういうのがあるか考えていたんですけども、環境基本計画というのは基本的には審議会の先生、学識経験者の方達が作ると思うんですけども、そのアウトプットの仕方、実現方法として、我々がじゃあ環境基本計画をこういうふうに自分達で行動していったらいいのか、というところを我々が話し合うのかな、と思います。

ただし、100点や200点の環境基本計画ができて、実効性がないものだったら、すごいね、いいねで終わってしまうと思うんです。計画そのものは60点でも70点でもいいから、実現性として市民意識にシンクロできるような実効性を我々のワーキンググループの中で考えていったらいいのではないかと、というようなことが望ましいと思います。その中で市民アンケートを見ますと、回答率が43%くらいだといっていますが、学校は閉鎖された中でアンケートをやったわけですから、それを除くと、約36%の回答率。それも標本数が3300の中でこの数字です。宇都宮市民というのは44万人くらいで交流人口ということで捉えると70万人近くになります。その中で実際に環境に対しての意識というのを皆さんがどれだけお持ちなのかと考えた時、どうなんだろうなと思いました。

ここにいる皆さんは環境に対する意識は高いんですけども、底辺という言い方はいいかどうかわかりませんが、そういうところに視線を合わせたような話し方をしていけないと、なかなか難しいのではないかと思います。

多分、自然環境と生活環境に分かれると思いますけれども、栃木県や宇都宮市の特性というのは、自然環境を保全していくとか、原生林がある、そういう状況じゃないんです。どちらかという、明治のあたりに開拓でどんどん入ってきて、当時の城下町の中で人が自然を作り出してきた、そういう文化があるので、そういう中では宇都宮も自然をこれから作っていく、100年経てばある程度の自然はできますよ、ということが栃木県としては実証できるわけですから。その中で宇都宮市という、"自然と利便性が共有しているまち"という印象がありますけれども、自然も我々が作りだせるんだ、ということでもいいんじゃないかと、先ほど林さんのお話であったんですけども、堆肥の会社ということで、仙台の民間会社で堆肥の回収などをやっています。その堆肥を市民の方々は買うんです。ごみの持ち込みはただですね。

また、先ほど都市景観の話が出てきましたけれども、那須にいけば、とちぎふるさと景観条例というかたちで、景観はきちんと守りなさいと。こういうのは行政としてもできると思うし、ひねくれまがった道、私の記憶だと日野町通りなんかはこれをコンセプトとしてやられているんじゃないかと思います。

そういった面でも幾らでもできると思うので、そういったものを市民レベルに広げていくことと、また外にでていった時、宇都宮からきた人は大したものだな、と言われるようなレベルまで行ければいいのかなと思います。

アンケートも10年後に標本数がすごく多くて、回答率が70~80%ということになると、何でも行政、行政という形にならなくてもいいのかなと思います。事業者という立場からいうと、なんでも条件がそろえば開発できちゃうんで、

	<p>そういう面からすると「計画なければ開発なし」という理念のようなものはあっていいのではないかと思います。</p>
三宅リーダー	<p>ありがとうございました。</p>
斉藤メンバー	<p>先ほどのごみの話ですが、自分のごみは宇都宮市の中に抱え込むことについては、総論賛成各論反対ということではなくて、確実にこれは必要性があると思います。</p>
手塚委員	<p>私は、東京ガスにおりまして、まさにエネルギー産業に携わってしまして、関心のある項目として取り上げました。</p> <p>このなかで、取り上げた理由は、地球にやさしいクリーンエネルギーだとか、先ほど森本委員も発言にもありました「快適な暮らしづくり」だとか、「環境にやさしい都市づくり」。これは私の会社の経営理念でもあります。</p> <p>望ましい状態としては、各事業者が環境に関する方針等を設定・公開し、自ら活動を展開する。としています。</p> <p>また、この望ましい状態を実現するためとして、当社の例として環境方針、ガイドラインを抜粋してきました。</p> <p>ここに、細かく目標、数字を出しているんですけども、事業者として何ができるかといいますと、環境方針やガイドラインの設定して対応を図っていくことが必要だと思います。</p> <p>実際問題として環境方針やガイドラインを各事業者にどのような形でつくらせるようにするか、どう実行するのかといった対応の検討は必要だという気はします。</p>
三宅リーダー	<p>ありがとうございました。最後に私になりますが、ペーパーを配っておりますのでキーワードを2つだけ言います。環境基本計画を誘発する活動について、2つ私は大事にしたいと思います。全市民の参加と数値目標です。</p> <p>以上です。リミットの時間になってしまいました。</p> <p>今日は各委員から非常に熱い思いをお聞きしたわけですけれども、全時間を使ってやらせていただきました。</p> <p>議論というかたちにはなりませんでしたが、まず皆さんの熱い思いをそれぞれ出していただいたと思います。</p> <p>今日は、環境基本計画づくりのプロセスのなかで非常に意義のある第3回目だったんだろうと思いきや、またそうしたものにしなければいけないという思いがあります。事務局には一旦受け止めていただいて、これを整理いただいてワンステップ進めながら、また議論ということになるのかな、そのように進めていきたいと思っています。今日はありがとうございました</p>